

日本発ドイツ便り：トイレのはなし

「水とサービスとトイレは無料」というのが当たり前だと思っている人は多いかもしれません。確かに、日本ではそうですが、一歩ヨーロッパに足を踏み入れると、水は無料じゃないし（ウィーンは除く）、サービスも無料じゃないからチップが必要だし、トイレだって無料じゃありません。（ある意味カルチャーショックを受けるポイントかもしれません。）

ドイツのトイレって、大抵は綺麗で安心して使えます。特にお店とかレストラン、ホテルなんかの中にある、Toilettenfrau（トイレッテンフラウ）と、そのまんまの名前で呼ばれる、お掃除というかトイレを管理する人（年配の女性が多いです）が常駐しているトイレは最強です。

ドイツでは一般の家庭でもそうなんです、**「トイレの匂いのするトイレ」**はダメ。というところに掃除の基準があります。

この Toilettenfrau たちには2つの任務を帯びています。一つ目は「清掃要員」で、二つ目が「保安要員」なんです。

1. 清掃要員：日本でよくあるのは、何時間かに1回、清掃の人が巡回して掃除をする。というもの。ドイツでもそういう場所が多いですが、Toilettenfrau の常駐しているようなトイレはもっと徹底していて、使うごとに掃除する！のです。個室が空く→掃除する→次の人が使う→掃除する→次の人。という具合。だから汚れる間のないトイレはとても綺麗です。ただ、こういう場合は、“die Nächste!”（ディ・ネクステ：次の人！）と声がかかるまでは空いても勝手に入ってはなりません。
2. 保安要員：これは多分「え？なんで？」と思う方も多いと思いますが、実はドイツでは大都市を中心に日本とは比べものにならないほど麻薬問題が深刻です。見張る人がいないと、トイレはどこでも麻薬中毒者のたまり場になってしまう可能性があるため、ある意味「保安要員」という任務も帯びているのです。一度たまり場になってしまうと、注射針の問題とか、治安とか、まあ要は色んな意味で一般の人が近寄れない場所になってしまうのです。同じ理由から、係の人を常駐できないような場合は、トイレの照明が蛍光色に近いような濃い青（これまたドイツ語ではそのまま Blaues Licht：青い光と呼びます）というか、なんだか消毒されているような落ち着かない色になっていることがあります（ショッピングセンターとか、誰でもアクセスできる場所に多いようです）。もちろん、わざわざそんな色にするには理由があって、この青色の照明の下では麻薬中毒者が自分の「静脈」の場所が分からないので、注射できないからなのだそうです（麻薬中毒者が心理的にこの色を嫌うから、という説明も聞いたことがあります。確かに、麻薬とは無縁の私が入ってもなんだか落ち着かない気分になるような色で、間違っても長居したいと思うような雰囲気ではないです。）日本にいるとちょっと考えられないような理由・状況ではありますが、それも残念ながら、ドイツの影の方の一面です。

これだけ重要な任務を帯びた Toilettenfrau たちですが、実はそのトイレのあるお店なりホテルなりレストランで雇われているのではなく、派遣されてきているケースがほとんどです。

ただ、この市場、ソビエト崩壊後にヨーロッパに流れ込んできたロシアのマフィアが牛耳っていて、不当な賃金で働かされている人（チップ＝マフィアの収入源で、Toilettenfrau たちは、休みなしで毎日働いても収入は月に100ユーロ！みたいなドキュメンタリーを見たことがあります）も多いとのこと。

まあ Toilettenfrau たちの労働条件については、私たちが心配しても仕方がないのですが、ここ最近のトイレ使用の料金は、特にいくら、と書いていない場合、50セントが相場ようです。丁度持っていない場合は、ちゃんとおつりをもらえますし、本当に持っていない場合は少々少なくても許してもらえます。また係の人が常駐していなくて、チップ用のお皿だけ置いてあるような場合は、まあ適当に置く感じですかね？

チップを置く場所も人もいないような場合は、無料で使用して良いと考えて良いです。
いずれにしても係の人がいる場合は“Danke!”（ダンケ：ありがとう）の一言は忘れずに！

ところで、話は変わり、私がドイツに住んでいた時、「これがドイツにあれば最高！」と思ったのが、日本が世界に誇る「ウォッシュレット」でした。

で、この「自動洗浄付トイレ」ですが、実はドイツにもあるんです。
…ただ、「洗浄」の対象が日本では「人体」だったわけですが、ドイツではその対象が「便座」という方向に向かった、というのが非常に興味深い点かなと思います。このドイツ式「自動洗浄付トイレ」、水を流すとニュインニュインと便座が一周して、洗浄・消毒される、という仕組みのものでした。一時はそこそこ見る機会もあったのですが、いつの頃からか見かけなくなりましたね。

トイレの形というのはドイツの方がバリエーション豊富だと思います。四角いものあり、すごい派手な便器の蓋だったり、トイレの扉がすりガラスだったり、まあ驚くことは色々です。（一番「すごい！カッコいい！」と感動さえ覚えたトイレは我が第二の故郷、ケルン大聖堂前のお気に入りのケーキ屋さんのトイレでした。◎あのトイレなら1ユーロ払っても惜しくない！と思う位斬新でした。）

あとはあんまり役に立たない豆知識をいくつか。（男性の方の状況については未確認です。悪しからず◎）

- ドイツの方が便座の高さが高いです（まあ基本的な平均身長が日本+10センチくらいだから、当然と言えば当然ですかね）。それに慣れてしまうと、日本に帰ってから、便座に座るまでの距離が長くて、しばらく戸惑うことになります。ほんの数センチの違いなのに！そんなところも体って短期間で適応するんですね。◎
- 個室を離れる時の正しい状態は多分日本だったら、便器の蓋を閉める。だと思いますが、ドイツでは、便座を上げた状態。です。
- トイレトペーパーの付け方ですが日本では「トイレトペーパーの先が上」（ちょっと説明が難しい…）になるようにセットすると思いますが、ドイツでは正反対。ペーパーの先が下になるようにセットします。（なので、ドイツのホテルとかで、「トイレトペーパーのセットの仕方も知らんのか？」なんて思わないでくださいね。）
- ドイツ語ではDamen（ダーメン）もしくは単にDの表示があるのが女性用、Herren（ヘーレン）もしくはHの表示が男性用です。（これは覚えておくと何かの時に焦らずにすみます。）

まあ細かな違いって本当に色々あるもんです。

「郷に入れば郷に従え」（ドイツ語だったら Andere Länder, andere Sitten.）ですかね。



これまた、あんまり関係ないことですが、最近ドイツのホテルで流行り？のように思われるのが、こんな具合のガラス張りのシャワーブース。◎一人で泊まったり、カップルで泊まる場合は何ら問題ないと思いますが、日本では一般的な、同性の友達と一緒に旅行。みたいな状況の場合は、どうするのか？と。それともドイツの人はこういう場合シングル2部屋で予約するんですかね？（ちなみにドイツでは日本のようにバスタブに浸かって入浴の習慣はありませんので、基本的にホテルはシャワーのみと考えた方が良いでしょう。もちろんバスタブ付の部屋もありますが、圧倒的にシャワーのみが多いと思います。）

今回は、少し視点を変えて、トイレから見るドイツでした。あとは現地で体感してみてくださいね。